

親子歴史講座 古文書ってなんだろう？—和紙とわら筆をつくろう—			
日時	平成30年7月29日(日)・8月5日(日) 全2回 14:00~16:00		
会場	講堂		
講師	鈴木 三美子(品川歴史館学芸員)		
受講者数	第1回 14組32名	第2回 13組29名	延受講者61名

〔事業目的〕

夏休みに親子で歴史に親しむとともに、親子の対話の機会を提供する。

〔開催趣旨〕

古文書は歴史を紐解くのに欠かせない史料であるが、崩された文字と漢文風の文体で書かれた古文書は、親しみのもてない展示品の一つではないだろうか。

本年度の親子歴史講座では、古文書を構成する要素である紙と文字に焦点をあて、文字を読むこと以外で古文書に触れることを目的とした。実際に自分で和紙とわら筆(わらをひもで縛った筆)を制作し、文字を書いてもらうことで、古文書に対して親しみを持てるようにするとともに、古文書に興味・関心を持つきっかけとなることを企図した。

〔講座内容〕

第1回「和紙をつくってみよう！」

品川歴史館所蔵の古文書の実物を閲覧しつつ、古文書が書かれている和紙には多くの種類があり、また材料も多様であることを学んだ。その後、和紙の原料である楮^{こうぞ}を水に溶かし、簀^{すけた}桁^すで漉いて和紙を作成した。漉いた和紙は歴史館にて次回まで乾燥させ、第2回にわら筆で文字を書く材料とした。

第2回「わら筆をつくってみよう！」

わらのミゴ(わらの先端部分)を紐で束ね、筆先を水につけ叩き、よくもんで柔らかくしてわら筆を作成した。そして第1回で漉いた和紙に文字を書いた。